

# Ciao チャオ

ドン・ボスコ海外青年ボランティアグループ 後援会だより



DECEMBER 2023 no. 68



< 目 次 >

☆ 卷頭言	武井アントニオ神父	… 1
☆ 夏の活動報告	青年たちの声	… 2
☆ 事務局より		… 14

# 巻頭言

武井 アントニオ神父

主のご降誕と新年のご挨拶を通して、4年ぶりに DBVG 海外派遣を実現することができたことを神様に感謝するとともに、皆さまのご寄付、ご支援、そして皆さまのお祈りに心より感謝申し上げます。

ご存知の通り、今年の夏休みを利用して、8月28日から9月11日までの約2週間、私たち11人と現地の青年1人合わせて12名がベトナム南部のカマウでボランティア活動をさせて頂きました。主な活動としては、学校に通えない貧しい子どもたちの教室にペンキを塗ったり、トイレの掃除を行ったりするものでした。また現地において、子どもたちの入学式で日本の文化を紹介し、ゲームや踊り、日本の食事を提供する機会も設けました。このようなイベントは現地の子どもたちや保護者にとって今までなかった大きな出来事であり、国境や言語を越えて一体感を味わえた特別な瞬間でした。そして、一日の活動や交流が終わった後には、楽器と日本語の歌を通じて心を一つにして、ともにミサとロザリオの祈りを捧げました。

2週間は短い期間だったかもしれません、活動した参加者にとっては、成長するための貴重な時間となり、一生忘れられない経験になったと思います。そして、この2週間、怪我や病気になることなく、無事に過ごすことができたことに、神様への感謝の気持ちでいっぱいです。

最後になりますが、あらためて恩人の皆さんに心より感謝申し上げます。皆さまのご協力なしに32年間も活動を維持することはできません。皆さまの寛大なご支援に対し、神様が豊かな祝福とご褒美を与えてくださることでしょう。今後もベトナムのカウマで暮らす貧しい寮生たちのため、彼らの輝くひとみ、笑顔を想いながら、夢と希望を持って、綺麗な環境づくりを続けていきたいと思います。幼きイエス様の愛、平和、喜びが皆さまのうちにありますように。また戦争が起きる国々でも実現しますようにお祈りいたします。

2023年の海外ボラティア活動の報告についての動画は「QRコード」より視聴できますので、是非ご覧下さい。



DBVG ホームページ



報告会動画 URL

## \* \* ベトナムでの活動を振り返って \* \*

2023 年度 海外派遣活動

日 程 2023 年 8 月 28 日(月)～9 月 11 日(月)

派遣先 ベトナムカマウ省

引 率 武井 アントニオ神父、堤 嶺作神学生

作業内容 トイレの設置、外壁のペンキ塗り、掃除、 etc.

### \* \* 清水 韶 \* \*

私は今年の夏、DBVG のみなさんと支援・応援してくださっている恩人方のおかげで、無事ベトナムでのボランティア活動を終えることができました。周りの人々の尽力が無ければ経験できなかっただため、感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

さて、私は今回のベトナムでのボランティア活動によって、ベトナムという国を肌身で感じ、現地の人々とのかかわりを通じて、様々なことを経験し、学び、自分のこれから的生活や生き方について考える機会を得ることができました。



それはベトナム滞在中のみならず出発前の準備期間から、DBVG のメンバーとのかかわりを通じても得られました。全員で DBVG の理念を改めて学び、目標を定め、活動を良い結果に終わらせられるよう各活動の話し合いや練習に励みました。私はこれまでの生活でこのような団体に参加したことがなく、最初は率先して自分から行動していくことに自信を持っていませんでしたが、活動の成功のために率先して動いてくださっていた周りのメンバーに影響を受け、私も見倣わなければという気持ちが湧いてきました。結果的に本活動全体を通じて、このメンバーは互いに良い影響を与えられる、誰も欠けてはならない良いメンバーであったと感じています。



ベトナムに到着して 2 日間は、サイゴンの管区長館に宿泊しました。私たちをサレジオ会の家族として豪華な食事や部屋で迎えてくださり、人とのつながりの温かさを学びました。またそれほど期待をされているのだと感じ、今後の活動に向けて気を引き締めました。ベンカット支部での大学生との交流では、一緒にスポーツと食事を囲んだ交流会を行いました。学生が私たちに積極的に関わってきてくださり、初めて海外の人と交流をした私にとって、こんなに楽しく魅力的なことなのだ、言語や住む場所が違う人とも気持ちがあれば通じあうことが出来るのだと学ぶことができました。

その後 1 週間カマウで滞在をし、現地の人々との交流や、学校の教室やトイレの整備作業を行いました。滞在中は雨期であったこともあり、大雨によって滞在していた建物の水回りが使えなくなるほど故障してしまいました。また、スポーツを通じて現地の子供たちと交流していると、学校に行けない子供たちの姿が時折見られました。学校に行けない子供たちの問題はその後滞在したタンカン支部でも見られ、日本に住んでいるとどうしても他人事のように感じてしまうことが多い問題ですが、このような環境で生活している人々がいるということを実際にこの場所に滞在することで身近に感じ、このような場所こそボランティア等の支援が必要であるのだということを改めて実感し活動の大切さを学びました。



多くの問題ですが、このような環境で生活している人々がいるということを実際にこの場所に滞在することで身近に感じ、このような場所こそボランティア等の支援が必要であるのだということを改めて実感し活動の大切さを学びました。連日の作業によって疲れを感じてしまう場面も多くありましたが、作業が完了した次の日の学校の入学式では子供たちの嬉しそうな顔を見て、大きな達成感を感じることができました。

ベトナムで活動したこの 2 週間は、実際に現地で滞在することでしか見ることができない、また考えることが難しい問題について考えられる時間がありました。私たちの普段の生活が如何に恵まれているのかということを自覚し、また貧しい状況にいる彼らにとってそれは自分の力で手に入れることができ難いのだということを考えさせられ、環境の差を埋めるべくボランティア等の支援が必要なのだと学びました。さらに、彼らとの交流で学んだこと多く、また私たちの活動で彼らが受け取ったこと多くあるとおっしゃってくださり、ボランティアの意義というものは、物質的なものだけでなく、人の関わり合いによって得られるものもあるのだということも学びました。私はこれまで周りの人と関わることに苦手意識がありましたが、今後の人生では積極的に関わり、良いものを与えあい、他人が躊躇したりしているのを見たときには率先して助けるボランティアの意義を実践していき、成長していくことを感じました。改めて、DBVG のみなさん、支援・応援してくださっている恩人方、素晴らしい経験をさせていただき、本当にありがとうございました。

### \* \* 船久保 あやみ \* \*

私は二週間ベトナムでの海外派遣を通して、数え切れないほど沢山の人と出会い、学び、そして多くのことを経験することができました。私はベトナムと縁があるので、ベトナムについては知っている方だと思っていました。しかし、今回カマウという場所を訪れてみて、自分が知っているベトナムとは少し雰囲気が異なるように感じました。世の中には学校へ行けていない子供たちや貧しい人がいるということは知っていたのですが、実際に現地へ行き、自分の目で見て確かめてみて、自分たちが普段置



かれている環境がどれだけ恵まれているか改めて考えさせられました。作業が始まってからは、現地の子どもたちが一緒に手伝ってくれて、作業をしながら子どもたちと一緒に沢山お話をすことができました。ベトナムに来る前の合宿で「ただお金を支援すればいいのかもしれないが、私たちがわざわざ現地に行くことに意味がある」という話をしていたのですが、その言葉の意味を本当に理解することが出来たと思いました。現地の人たちとの交流を大事にし、ボランティアを通して日本の文化を伝えたり、私たちがボランティアをしたりする事によって、してもらった側も将来ボランティアをするきっかけになるかもしれませんし、お互いに良い影響を与え合うことができると思いました。現地の方が、作業をしている私たちのために、雨の中びしょびしょに濡れながら、飲み物やデザートを差し入れで買って笑顔で持って来てくれて、ベトナムに着いてから私たちが何かをすることよりも何かをしてもらうことの方が本当に多いと感じ、人の優しさを身に染みて感じました。作業も、慣れない作業を私たちがするより現地の人がした方が効率はいいけれど、現地の人も私たちの慣れない作業を見ても手を出さないでくれていて私たちにとってとても良い環境で、現地の人たちのためのボランティアなのか私たち自身のためなのか考えさせられました。神父様や近所の方々、子供たちから本当に良くしてもらって、現地の皆さんが私たちのために何かをしてくれようと考えて、気にかけてくれて、沢山の人に支えられていると感じました。



夕飯の自炊当番では、普段料理をしないので、十人分のご飯を作るのは本当に大変だったのですが、とてもいい経験でした。以前の私は何も考えずに、ただ美味しいと食べていたのですが、自分が夕食当番をしてからは、ご飯を作ることの大変さを知ったので、以前よりも、作ってくれる人や食材への感謝の気持ちを大事にして食べるようになりました。

五日間の作業を終えて、無事子供たちの入学式を迎えることができました。入学式の神父様が「保護者の皆さん。目の前の利益だけを考えて子供に働かせるのではなく、こうして子どもたちをここに通わせてくれてありがとうございます。目の前の利益だけを考えて子どもたちを働かせるということは子どもたちから学ぶ機会や楽しみを奪っています。ここは普通の学校のようではないけれど、子どもたちが優しい人になってここを出してくれたら嬉しいです。」と話しているのを聞いて、自分たちは日本で生まれて、幼稚園、小学校、中学校、高校、大学と当たり前のように通わせてもらつたけれど、それが当たり前ではなくてできない子供たちも沢山いるというのを自分で見て知って、この活動に携わって、ここに通う子供たちの学ぶ環境を整えることができて嬉しいと思いました。子供達は経済的に貧しくてもいつも笑顔でむしろ自分が元気を貰いました。私はベトナムへ行く前、「人との出会いと感謝を大事にしたい」という目標があったのですが、その目標を達成することができました。二週間の間、楽しかった時も、辛いことがあった時も沢山の人に救われました。現地の方々や青年たちだけでなく、

一緒にベトナムへ行った DBVG のメンバーとの仲もより深まり、知らなかった一面や良い所を沢山知ることができて嬉しかったです。慣れない環境での生活で、大変だったことも多かったのですが、自分でも感じるくらいこの二週間で人として成長することができました。毎晩の分かち合いで、1日を振り返ることの大切さ、他の人の考えを聞くことや、自分の思っていることを文字や言葉にすることの大切さを学びました。また、自分にできることは小さいけれど、目の前の出来ることから、少しずつやることが大事だと学びました。無理に大きすぎる目標を立てて挫折するのではなく、まずは目の前の小さなことから始めるということを今後の生活でも活かしていきたいです。そして、人の出会いと感謝をこれからも大切にしていきたいです。

### \* \* 武井 明俊 \* \*

8月下旬から約2週間、有志13人で構成されたドン・ボスコ・ボランティアグループ(DBVG)はベトナム南部を訪れ、ボランティア活動、巡礼や現地の人との交流会を通して、ボランティアの意義を考え、現地の人と良い影響を与え合うことができた。本振り返りについては、ボランティア活動をする中でも私が特に考えた2つの事項について述べる。

一つ目は、現地の人と影響を与え合うことについてである。カマウの教会でのボランティア活動は小学生の子供たちの使う建物の壁塗りとトイレ補修である。作業の中で、子供たちや教会の信者と作業をしたが、雨がよく降ったため、あまり、一緒に作業はできなかつた。しかし、雨が降ったことで、気温が下がり、作業がはかどつた。それでも、作業の進捗はいつも順調というわけではなかつた。途中でお腹を壊した人もいれば、全員の疲労がたまり、作業のペースが遅くなることもあつた。それでも、全員が自分のできる仕事を精一杯こなし、小学校の入学式に間に合わせられ、達成感のある作業ができたと感じられた。そして、カマウを離れる際、子供たちから、来年も来るのかと聞かれたり、信者の一人から日本人は作業にメリハリがあると言つてくれたことをうれしく思つた。逆に現地の子供たちや教会の信者から

は気兼ねない接し方をしてくれて、かつベトナムでの文化や考え方を分かち合うことができたため、ボランティアを通して、現地の人と良い影響を与え合うことができたのではないかと思う。

二つ目はボランティアの意義についてである。ベトナムに来る前に私自身のDBVGに対する目標を決めた。それは、ボランティアの意義について考えることである。もともと、私はボランティアについてマイナスのイメージがあつた。



例えば、ゴミ拾いボランティアでは、その場所が綺麗になるのは一時的で何日か後ではまた、ゴミが溜まったり、ボランティア活動をする人の中にはボランティアをするのがメインではなく、あくまで就職活動のためにボランティアをしたりする人もいるため、ボランティアをすることにより、デメリットも生じるのではないかと考えた。しかし、今回のボランティア活動を通して、全員が真剣に取り組み、分かち合いの中でボランティアの意義を参加者一人一人がよく考えることができた。また、ボランティアにより、本当に困っている人の助けになり、現地の一部の信者が今後、教会のためにもっとボランティアしようと考えてくれた。そのため、私たちが行ったボランティアを行ったことで得られたことは非常に多く、特にボランティアを行う意義を考えるには良い機会になったと思う。

私たちが行ったベトナムではボランティアを通し、いろんな人と出会い、話をしたり、同じ作業をする中で良い影響を与え合い、ボランティアの意義について考えることができた。この経験を通し、今後とも国内ボランティアを行い、さらに多くの人と、良い影響を与え合い、ボランティアの意義について考えたいと思う。

### \* \* 伊藤 大和 \* \*

ベトナムにおいて、貧困層の子供たちは教育を受ける機会に恵まれず、学校に通うことが難しい現実があります。DBVGは、この問題に焦点を当て、子供たちの教育機会を向上させるために活動してきました。

私たちの活動の中で最も重要な課題は、現地の学校のトイレ改修でした。カマウの学校にはトイレがありましたが、男子と女子が同じトイレを兼用していたため、衛生面での問題やプライバシーの不足が深刻な課題となっていました。子供たちが健康で快適な環境で学べるようにするために、私たちは女子トイレを建設することを決定しました。プロジェクトの始まりは、地元の建設業者やコミュニティと連携し、設計から材料調達、建設作業までを計画しました。私たちはボランティアとして、地元の職人や学生たちと共に作業しました。このプロセスで私たちは団結力と協力の大切さを学びました。また、現地の人々から多くのことを学び、彼らの生活環境や文化に対する理解が深まりました。



作業が進行するにつれ完成が見えてくるため、私たちのモチベーションも高まりました。完成した女子トイレは、地元の学校にとって大きな進歩であり、子供たちにとっても安心して学校に通える環境を提供することができました。

作業の他にも子供たちの入学式のお手伝いもさせていただきました。式の中でレクリエーションや踊りを行い、子供たちと交流し、楽しんでもらえました。言葉は伝わらないけど笑顔にさせることができて嬉しく思いました。



また、作業を行った教室、トイレ、廊下を見学してこれからの学校生活を楽しみに思うかのような表情は私たちにとって非常に感動的で、ボランティア活動の重要性を再確認させられるものでした。

このベトナムでのボランティア経験は、私にとって生涯忘れないものとなりました。子供たちとの交流や地元の人々とのつながり、そして現地での実践的な貢献が、私の人生観を変える一助となりました。また、DBVG のメンバーと共に活動することで、持続可能な変化をもたらすためには、地元コミュニティとの連携と協力が不可欠であることを学びました。このボランティア活動は私にとって人生の貴重な体験であり、私の価値観や視野を広げる機会となりました。ベトナムの子供たちがより良い未来に向かって進む手助けができたことを誇りに思います。そして、今後も社会貢献活動に積極的に参加し、世界の課題に寄与していきたいという思いが強りました。

### \* \* 大山 唯 \* \*

ベトナムへの出発前、私はボランティア活動の動機についてうまく言語化できていませんでした。それは活動に対して具体的なイメージが全く湧かなかつたこと、そして自分の中で明確な目的が捉えられなかつたことに起因しています。しかし、ベトナムから帰国し、現地での生活を振り返るなかで、この活動を通じて誰が誰にどのように影響を与え、変化をもたらしたのかについて考えることが多くありました。



ベトナムでは、現地のサレジオ会員をはじめ、青少年、信者の方々から温かく歓迎され、活動がスタートしました。特に家族的な歓迎は、未知の異国の地での生活への不安を取り払ってくれました。いくつかの場所で活動を行いながらも、この温かな雰囲気は一貫しており、サレジオ会の家族的な雰囲気を感じながら活動できました。そして、このことは現地の子どもたちも感じていたのではないかと思います。私たちの作業中に、現地の方々が協力して一緒に作業する姿、始業式で先生や生徒、親御さんが一堂に会して新入生を迎える姿、年齢に関係なく一緒に楽しくスポーツをする姿など、どの瞬間もサレジオらしさが満ちていました。この期間を通して、私たち DBVG のメンバーもその雰囲気から良い影響を受けることができました。活動中お互いに良好なコミュニケーションをとることができたのは、現地の雰囲気がその中の活動に影響を与えていたからだと思います。

以前、他者に良い影響を与える存在になりたいという内容の記事を書いたことがあります。今夏の DBVG の活動によって、その目標に一步でも近づけたらと思っていましたが、

関わった多くの現地の方々や共に活動したメンバーから受けたものが非常に多岐にわたりました。それが私の目標に向けての重要な一步となったことを実感しています。DBVG の

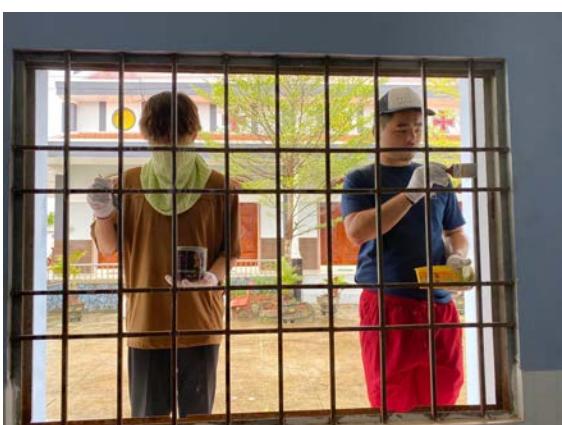


理念に基づいて今後も活動していく中で、これから多くの新しい体験が待っていることを期待しています。これらの活動を通して、私は 1 人の人間として成長し、今後出会うであろう多くの人々と経験を分かち、これまでに受けた良い影響を未来に繋いでいけたらと思っています。

### \* \* 山城 勇次 \* \*

今回の私達の活動は、ひとつのテーマとして「ボランティア意義」について考えながらボランティア活動をするということがありました。

今回の活動を行った場所はベトナムのカマウという所のタックバン地区の教会学校で、教室のペンキ塗りや机磨きトイレ掃除などをしました。作業初日、私はペンキ塗りの作業をする班でした。私を含め班のみんなは初めてのペンキ塗りだったので最初に現地の人の手本を見せてもらってから真似するようにペンキ塗りを行いました。しかし、現地の人のように上手くペンキをぬれずムラができてしまいました。私は何度も塗りなおしていましたがそれを見かねた現地の人が私に何回もコツ教えてくれました。そのおかげもありムラなくペンキを塗ることできるようになりました。ですがその日はとても緊張しながら作業を行っていたのを覚えています。私たちの作業を現地の人が後ろでずっと見ていて、ベラベラベトナム語で話しているのが聞こえてきてとても不安でした。その日の作業中頭の中で「僕たちが本当にこれをやっていいのかな、現地の人たちがやった方が効率がいいし上手にできるんじゃないかな」という思いがよぎりました。その日の分かち合いの時間を取りた時に同じことを思っている人がいました。私達がここに来たい意味ってなんだろうって考えさせられる初日でした。



作業 2 日目、前日のこともあるって、少し暗い気持ちで私は作業を行っていましたが、途中から元気な子供たち（小学生～中学生）が見え、私たちの作業を手伝いに来てくれました。彼らは嫌な顔一つもせず、終始笑顔で私たちの作業を手伝ってくれました。私は彼らのおかげで元気が出て彼らのために頑張ろうという気持ちに切り替えることができました。ベトナムの子供たちはすごいなって

思いました。作業後は子供たちと一緒にバスケをしました。非常に充実した一日を過ごせて前日の不安を忘れた一日でした。それからの活動は、作業をして子供たちとスポーツをするというルーティンで活動を行いあつという間に 5 日も経ち入学式までに子供達の教室を綺麗に仕上げることができました。今回のボランティア活動の作業は子どもたちのおかげで最後までやり遂げることができたと思います。そんな彼らが毎日を充実して過ごせるようにみんなで一生懸命教室を作り上げたこと、誰かのためを思い作業ができたこと、そこにも意義があると思いました。子供たち入学式当日、私は食事作りの担当だったので子供たちの様子は見られなかったのですが、子供たちが教室に入った時に驚いていた、喜んでいたと報告を聞きとてもうれしかったです。

私達は 5 日間の作業と 2 日間の授業をカマウでした。結局ボランティアの意義とは、深くはわかりませんでした。しかし私たちがやったことには必ず意味があることだと思います。ペンキ塗りという小さな作業でしたが、私たちは子供たちのためを思って真剣に取り組みました。子供たちもそれを一緒になって取り組んでくれました。彼らはこれから私達と一緒に作った教室を大切に使ってくれると思います。そして私たちはドン・ボスコの名のもとに派遣され、たくさんの子供たちと関わり、喜びを分かち合えたこと、これには非常に意味があったと思います。そこに私達が来た意味はあったと思います。

最後に、今回の活動で私たちはたくさんのお恵みがあったなと感じています。どこの教会に行っても私たちは歓迎されました。一緒にミサをして食事をして歌って踊ってたくさんのベトナムの青年と仲良くなれました。それができたのも今回参加したメンバーのおかげです。メンバーの半数がベトナム語を話せたため現地の青年とコミュニケーションをとることができました。また楽器も弾けるメンバーもいて、日本の曲を披露することができました。こんな恵まれたメンバーでいけたことに感謝しかないです。なにより私達のためにたくさんの支援とお祈りをしてくださった皆様のおかげで無事に活動を終えることができました。本当にありがとうございました。

### \* \* 武井 日出人 \* \*

今回、DBVG でベトナムへボランティア派遣に行きました。私自身、両親がベトナム人ということもあって馴染みのある国だったので、実際に現地の人たちと触れ合う機会は少なかったので出国前は緊張していました。しかし、ベトナムに着いて現地の方達と交流していくその緊張もだんだんほぐれてきて、家族といふ時しかベトナム語を使っていなかったのですが、ちょっとしか





喋れないながらも、気持ちとジェスチャーなどを使って会話できたことが嬉しかったです。ベトナム人は日本人とは違い、積極的な人が多いイメージでした。初対面の人と喋る時、日本人は相手の顔色をうかがったり、相手の内面を知らないと仲良くなれない人が多いイメージなのですが、ベトナム人はグイグイどんどん話しかけてくれて何も壁を感じず楽しく会話したりスポーツできたりしました。ボランティアのメイン場所であるカマウについてから神父様や先生方、子供達の歓迎を受けて作業や交流を行いました。

作業をしている途中めんどくさいと思うのに現地の子供たちが手伝ってくれたり、お父さん方が差し入れをくださったりして感謝いっぱいでした。この作業を通して改めて住んでいる国が違っても文化が違っても優しさというものは伝わり大事であると思いました。逆に日本との違いを感じたところもありました。宗教の信仰心の違いです。日本の人たちは人によって異なりますが週に1、2回ミサに行っている人がほとんどだと思います。しかしふトナムの人はほぼ毎日、しかも早い時間だと朝4時からミサに行く人がいて驚きました。また子供だけのミサがあるほど子供の数が日本では考えられないほど在籍しており信仰人口の違いを感じました。教会はとても大きくその教会から少し離れただけでまた大きな教会があるというのを見てそこでも驚きを感じました。色々なことを体験し、私自身がまだ知らないことを経験し成長することができました。例えば、積極的に人に話すことができるようになることで人とのふれあいの幅が広がることを学び、初対面の人だからという理由で消極的になるのではなく、こちら側から話しかけることが大事であると学びました。また日本人がベトナムの国で暮らす時の不自由さを学びました。お風呂がなければお湯もない時もあり、トイレは雨の影響で浸水し臭う日々が続く時もありました。エアコンもなく硬いベッドで現地の人が生活しているのを見て、日本という国での暮らしが裕福なものであると感じられた期間でした。少しでも現地の方達に普段以上に過ごしやすくなるようなことをあげることができなかったことが悔しいです。しかし、子供達の笑顔を見れて作業の達成感を得ることができました。来年もまたボランティアすることになったら今回とは違い、より現地の人と向き合って何をするべきなのかをしっかり考えて行動していきたいと思います。

サレジオ会と恩人の方達に大変感謝しています。普段できないような体験をさせていただき自分がこの経験を通して成長することができました。皆様のご支援がなければ出来なかった体験です。この経験を今度、私が生きていく中でいろんな方面で影響を与えられるよう努力してまいります。本当にありがとうございました。



## \* \*森 勇太\* \*

カトリック大和教会に所属しています、森勇太です。

この派遣を通じて多くの人に感謝すべきと感じました。この機会を作ってくださった武井神父様。派遣中、ともに活動してくれた仲間たち。日本より様々な支援をしてくださった恩人の方々。普段は社会人として働いているので、2週間という長期で休みを取らせてくださった会社の上司。そして現地で私たちの活動を支えてくれた方々。本当にありがとうございました。

特に、現地の方々の支えは活動するなかでとても強く感じました。



ベトナムへ到着し管区長館でとても手厚くもてなされ宿泊場所を提供して頂き、ボランティアへ来たことを忘れそうになってしまったほどでした。ベンカット支部での交流会では現地の学生が通訳をしてQ&Aコーナーを設けてくれました。たくさんの質問が出て日本のことを探る姿勢に驚いたと同時に、返答に困る場面も多々あり、意外と自分たちは日本のこと知らないのかもしれないとも思いました。そこでは、寮で暮らす大学生たちと同じテーブルを囲みました。元々英語は上手くなかったので、相手の話していることは何となく理解できても自分からは上手く伝えられずもどかしい思いでした。交流における語学の大切さ、必要性を強く感じました。都市部を離れ、カマウで滞在先のタックバン教会へと移動しました。国内線で移動し空港から離れていくほど周りの景色がどんどん田舎になっていきました。サイゴンから250km、日本であれば東京と名古屋くらいの距離ですが、日本ではいくら田舎でもここほどの生活格差は感じたことがありませんでした。

作業をしていて最も印象に残ったのは子供たちが授業を受ける机です。建物を改修するとき汚れてしまった机を洗っていると、裏側に釘が出ていたり高さが低い机の足を無理に継ぎ足しグラグラだったり、天板のデコボコさがよく分かりました。子供たちがとても悲惨な環境で勉強している状況に心が痛みました。作業を進めるなかで順序やペースの違いなど様々なことに悩まされ試行錯誤の連続でした。



派遣期間の終盤、都市部に戻り移動中の車内より街並みを見ていると多くの家庭のベランダにイエス様やマリア様の等身大の御像が据えられているのを多く目にしました。また、街中に1000人は収容できそうな聖堂が目で見えるくらいの近さに幾つもあることにとても驚きました。カトリック信者の多さ、そして信仰の熱さを見て取ることができました。

派遣される直前「自分たちがボランティアへ行く意義は何か?」と度々考えていました。社会人なので仕事を休む分の給料、旅費、滞在費など現地へ赴くことに掛かる費用で金銭的な支援をした方が良いのではないかと。確かに効率を重視すればその方が良いのは明らかですが、現地に赴くことで初

めて得られるもの、体感するものがとても大きいと感じました。個人的な目標のひとつであった「ベトナムを知る」事は大きく進歩したと感じています。



派遣中、毎晩その日の振り返りを分かち合いしていましたが、その時に出てきた「私たちの存在がボランティアである」という言葉が印象に残っています。今後、いつこのような機会が巡ってくるか分かりませんが聖書にある「いつも目を覚ましていなさい」の言葉のように自分自身の準備をし、ベトナムでの経験を日々の生活に生かしていければ良いなと思っています。

### \* \* 池田 麦人 \* \*

私たち DBVG はこの夏ベトナムに行った。コロナ禍で活動ができなかったので久しぶりの DBVG での海外派遣だった。ベトナムは DBVG の活動場所としては初めての国であり、前回の DBVG から引き継ぎの参加者もいなかったので、全て手探りでの活動だった。加えて、今回の DBVG のメンバーはボランティア活動の未経験者が多く、私も含めボランティアとはなんたるものなのかが不明瞭だった。そのため DBVG の活動するにあたり、私たちの中での一つの問い合わせとして「ボランティアの意義」が提示された。私たちはなぜベトナムに行くのか。何のためにボランティアをするのか。ベトナムへ行く前日に皆で話し合ったが、私は今ひとつ納得がいかなかった。頭で考えても仕方ないと思い、現地での活動を通してこの問い合わせの答えを見つけようと心に決めベトナムへ向かった。



8月下旬。ベトナムに到着した私たちは最初の数日間をサイゴン（ホーチミン）で過ごした。そこで現地の気候や環境に慣れると共にさまざまな人と交流した。特にサレジオの志願院に行った時には志願生の数に驚いた。志願院には 40 人の志願生が生活しており、日本とベトナムの志願院の違いを共有することができた。同じドン・ボスコの家族として、さらに志願生として彼らと関わることで、自分の召命にとって大きな糧となることがで



きた。続いて場所を移し、今回の活動のメインの場所にあたるカマウ支部での活動について皆さんと分かち合いたいと思う。ベトナム最南端であるカマウは雨季の終わり目に差し掛かり、天気は概ね安定するだろうと思われていた。そんな予報と期待は見事に裏切られ、嵐のような雨が四六時中降る毎日だった。なぜ天気の話から始めたかというと、この悪天候が私たちの生活を幾度となく苦しめたからである。降雨によ



り排水が機能せず、足元も悪くなり、何より作業に支障が出ていた（壁のペンキが流されたことなど）。それでもカマウでの作業は学校のリフォームと、子どもたちの入学式という大きな成功と共に終えることができた。作業は成功したが、その中には多くの葛藤があった。作業内容はペンキ塗り、トイレ掃除、ニス塗りなどの作業だった。私は主にペンキ塗りをしたのだが、今までそのような作業をしたことがなかった私はペンキとローラーを渡されても何をすれば良いのか分からなかった。慣れない手で壁にペンキを塗っていたが、当然うまくできなかった。作業の疲れと共にこのような考えに陥っていた。作業は現地の人がした方が効率的なのではないか、と。実際、現地の人は作業のノウハウを熟知している。ではなぜ私たちがする必要があるのか。学校再建の作業の途中、いろんな現地の人が差し入れを持ってきてくれたり、一緒に手伝ってくれたりした。私たちが不器用に、それでも一生懸命に作業をしている姿勢が現地の人に伝わったからだと思う。私たちはできないことの方が多いけど、現地の人たけめ、特に子どもたちのためにできる最大限のことをしてやるとしていた。それが現地の人に良い影響を与えていた。私たちが現地の人にボランティアをすることには大きな意味があったということに気付くことができた。

「ボランティアの意義」とは何か。ベトナムでの DBVG の活動を通して、この問いの答えを出すならば、ボランティアとは「愛の行い」であると感じた。自分ができるとかできないとかで考えるのではなく、相手のことを思い、その人のためにできることを精一杯する。それこそがボランティアであり、愛の行いなのだと思う。

### \* \* 堤 嶺作 \* \*

今回、2018 年のソロモン派遣以来、2 回目となる DBVG の海外派遣に参加させてもらいました。今回は参加者も多く、派遣先もベトナムということで前回とは違った体験をすることができました。

まず、ホーチミンではベトナム管区のサレジオ会員の方々、志願生、若者たちとスポーツ、祈り、食事などを通して交流をすることができ、とてもよい時間を過ごすことができました。

皆さんの熱い歓迎によってベトナムに着いて少し不安だった気持ちが和らいでいきました。

カマウに着いてからも神父様と教会の子どもたちによる歓迎を受け、ソロモン派遣のとき同様、ドン・ボスコの団体というだけでどこに行っても皆と繋がり、すぐに打ち解けられることを実感しました。カマウでの作業は教室のペンキ塗りなどを担当したのですが、慣れない気候もあって軽い作業のわりにたくさん汗をかき、すぐに疲れてしまいました。





そのような中でも DBVG の他のメンバーたちと声を掛け合うことで最後までいやな気持にならずに作業を進めることができました。また、時々現地の子どもたちも手伝ってくれ、彼らと一緒に作業することで大変な思いも喜びも分かち合い、賃金を目的とする一般的な作業とボランティア活動の違いも見いだすことができました。教会の信者さんたちが毎日のように（時には大雨の日も！）差し入れとして全員分のおやつを持ってきてくれ、自分たちを大切に思ってくれていることを嬉しく思いました。

夜には毎日メンバー全員でその日の振り返りと分かち合いの時間がありました。その日のみんなの経験が自分の経験となり、自分の経験がみんなの経験の一部になる、とても大切な時間でした。自分はこれまでいろんな場所でたくさんの出会いと別れを経験してきて慣れてしまっていたのですが、他のメンバーの現地の人に対する思いを聞いていくうちに、今回経験した出会い、そして現地の人たちと一緒に過ごす時間をもっと大切にしないといけないと気づくことができました。



今回のベトナム派遣のメンバーには感謝しています。最初はどこかぎこちない関係でしたが、毎日の作業、食事、ふざけあう時間をと分かち合う時間を通して派遣前には見えなかったメンバーの一面が見えてきて、日を追うごとにメンバー間の繋がりは強くなっていました。今回は現地の人や現地での体験からだけなく、このメンバーたちから多くの学びと気づきを得ました。

最後になりましたが、今回の海外派遣にあたり、物資や資金、お祈りによって支えてくださった恩人の方々に感謝申し上げます。10人の若者たちの体験も私自身の体験もたくさんの方々の支えがあってのものでした。このような機会をつくってください本当にありがとうございました。

### 《 事務局より 》

今年もあと残すところ僅かとなりました。  
後援会のみなさまのお力添えをいただき9名の青年たちがベトナムでの活動を終え、無事に帰国致しましたことをご報告いたします。帰国後も定例会や報告会において彼らの成長ぶりを垣間見ることができ、この夏のお恵みの大きさを改めて感じます。  
今後ともご支援の程、よろしくお願い致します。



*Ciao* チャオ

発行：DBVG 事務局

〒160-0011 東京都新宿区若葉1-22-12  
サレジオ日本管区長館内

TEL: 03-3353-8355 Fax: 03-3353-7190  
Mail: [sdbdbvg@gmail.com](mailto:sdbdbvg@gmail.com)

ホームページ：

<http://www.oratorio.tokyo/dbvg> (新)

<http://www.donboscojp.org/sdbdbvg>

facebook ページ：

<https://www.facebook.com/DBVGJapan>

振替口座番号 00150-1-553622  
ドン・ボスコ海外青年ボランティアグループ